

海岸保全施設の整備に関する基本的な事項

後志檜山沿岸の海岸線延長は約 523km と非常に長く、大小の離島や砂浜、岩礁等の変化に富んだ海岸線を形成している。また、希少な鳥類が生息する地域、漁業に利用されている地域など環境、利用についても多様性に富んでいる。

そのため、地域の特性に応じ、バランスのとれた計画を策定し海岸の保全を進めていくために、ゾーン区分を行い各ゾーンにおける基本的な方向を示す。



図- 2.2.1 ゾーン区分図

各ゾーン毎の基本的な方向

	防護	環境	利用
A	大島・小島 自然環境に配慮し、基本として施設整備に慎重な取り組みとする。	貴重な動植物が生育・生息する自然環境に配慮する。	利用による自然環境への影響を最小限に抑えるため、基本として利用には慎重な取り組みとする。
B	松前半島 来襲波浪に対して海岸保全施設の効果維持を図る。	減少する藻場と、海食崖・岩礁・砂浜などで生み出される自然景観に配慮する。	多様化する海岸利用に対応し、パブリックアクセスの確保と町村と連携し利便性の向上と利用者のマナー啓発に取り組む。
C	江差 来襲波浪に対して海岸保全施設の効果維持と局所的な侵食に対して砂浜の保全を図る。		
D	茂津多 北海道南西沖地震津波で被害を受けた地域での津波対策を推進と、局所的な侵食に対する砂浜の保全を図る。		
E	岩内 砂浜の保全による現状汀線の維持と海岸保全施設の効果維持を図る。		
F	積丹半島 来襲波浪に対して海岸保全施設の効果維持を図る。		
G	奥尻 砂浜の保全による現状汀線の維持と海岸保全施設の効果維持を図る。	減少する藻場と、海食崖・岩礁・砂浜などで生み出される自然景観に配慮する。	

A) 大島・小島ゾーン

防護面の特性：現在、海岸保全施設は整備されていない。

環境面の特性：両島ともに国の天然記念物に指定されており、貴重な自然環境が残されている。

利用面の特性：第4種漁港が整備されており避難港として利用されている。



大島



小島漁港



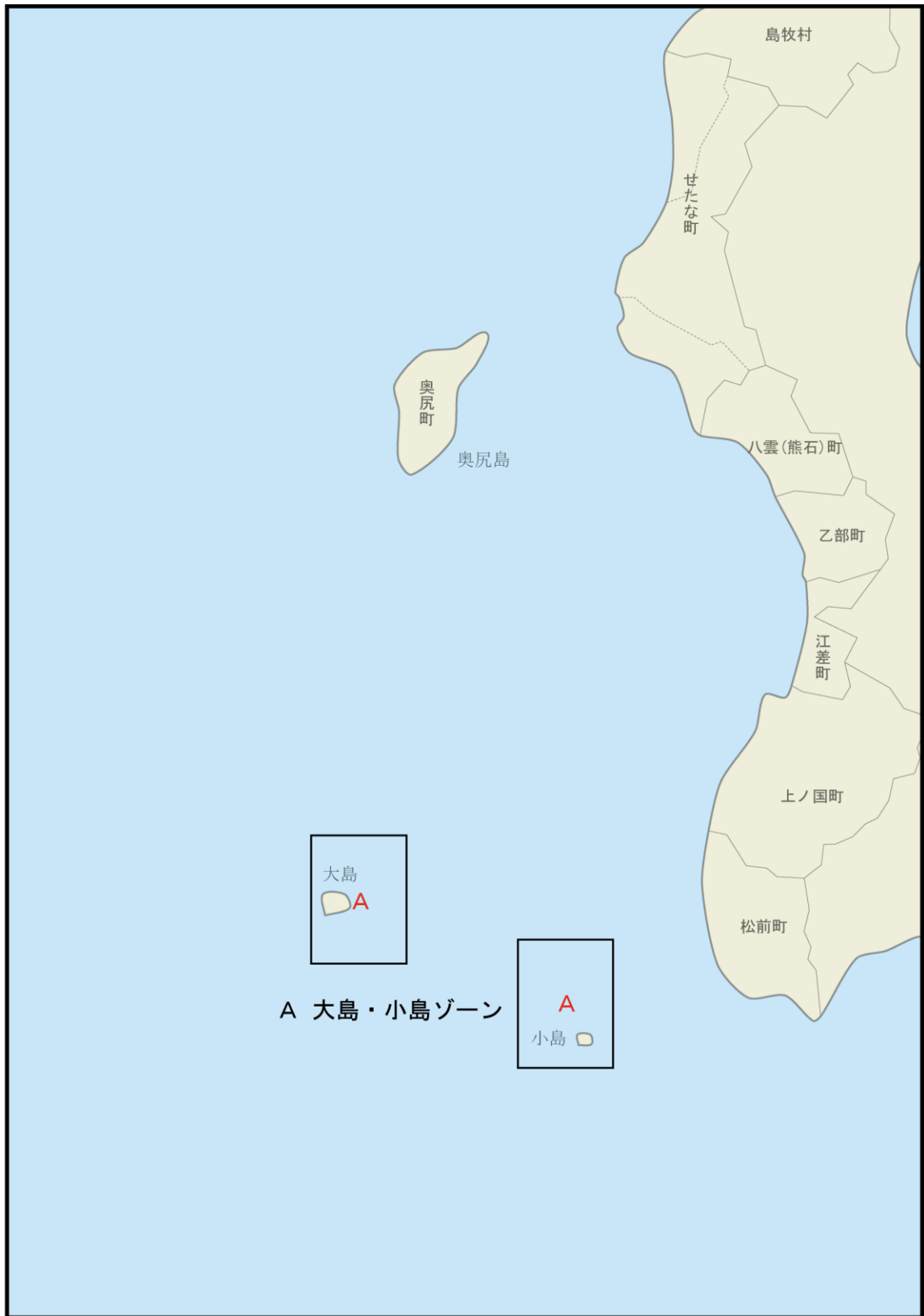
小島

【ゾーンの方向性】

防護面：自然環境に配慮し、基本として施設整備に慎重な取り組みとする。

環境面：貴重な動植物が生育・生息する自然環境に配慮する。

利用面：利用による自然環境への影響を最小限に抑えるため、基本として利用には慎重な取り組みとする。



A 大島・小島ゾーン郭割図

B) 松前半島ゾーン

防護面の特性：波浪による越波被害が多い。施設の老朽化が進んでいる。

環境面の特性：岩礁景観が主である。海域には藻場が分布しているが近年では減少が顕著である。

利用面の特性：コンブ漁業が盛んで、海岸はコンブ干場として利用されている。釣り、海水浴利用が行われている。



越波状況



コンブ干場利用



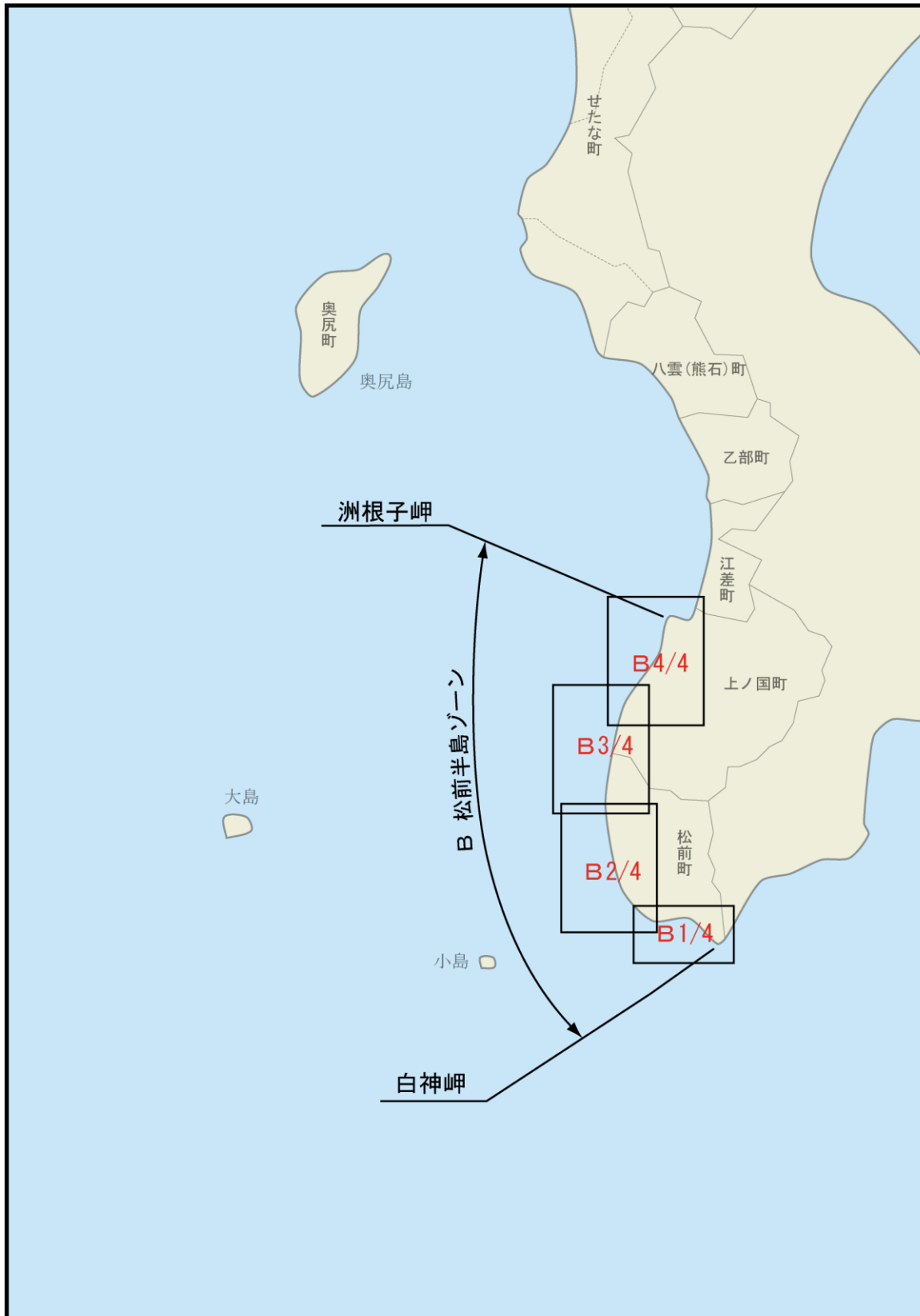
折戸浜海水浴場

【ゾーンの方向性】

防護面：来襲波浪に対して海岸保全施設の効果維持を図る。

環境面：減少する藻場と、海食崖・岩礁・砂浜などで生み出される自然景観に配慮する。

利用面：多様化する海岸利用に対し、パブリックアクセスの確保と町村と連携し利便性の向上と利用者のマナー啓発に取り組む。



B 松前半島ゾーン郭割図

C) 江差ゾーン

防護面の特性：波浪による越波被害及び局所的な海岸侵食が生じている。

環境面の特性：景勝地が多く、岩磯の間にポケットビーチが点在する海岸である。海岸に漂着する流木やゴミにより景観が悪化している。

利用面の特性：釣り、海水浴が行われている。特に海水浴客が多い地域である。



越波状況



砂浜



鮭の岬



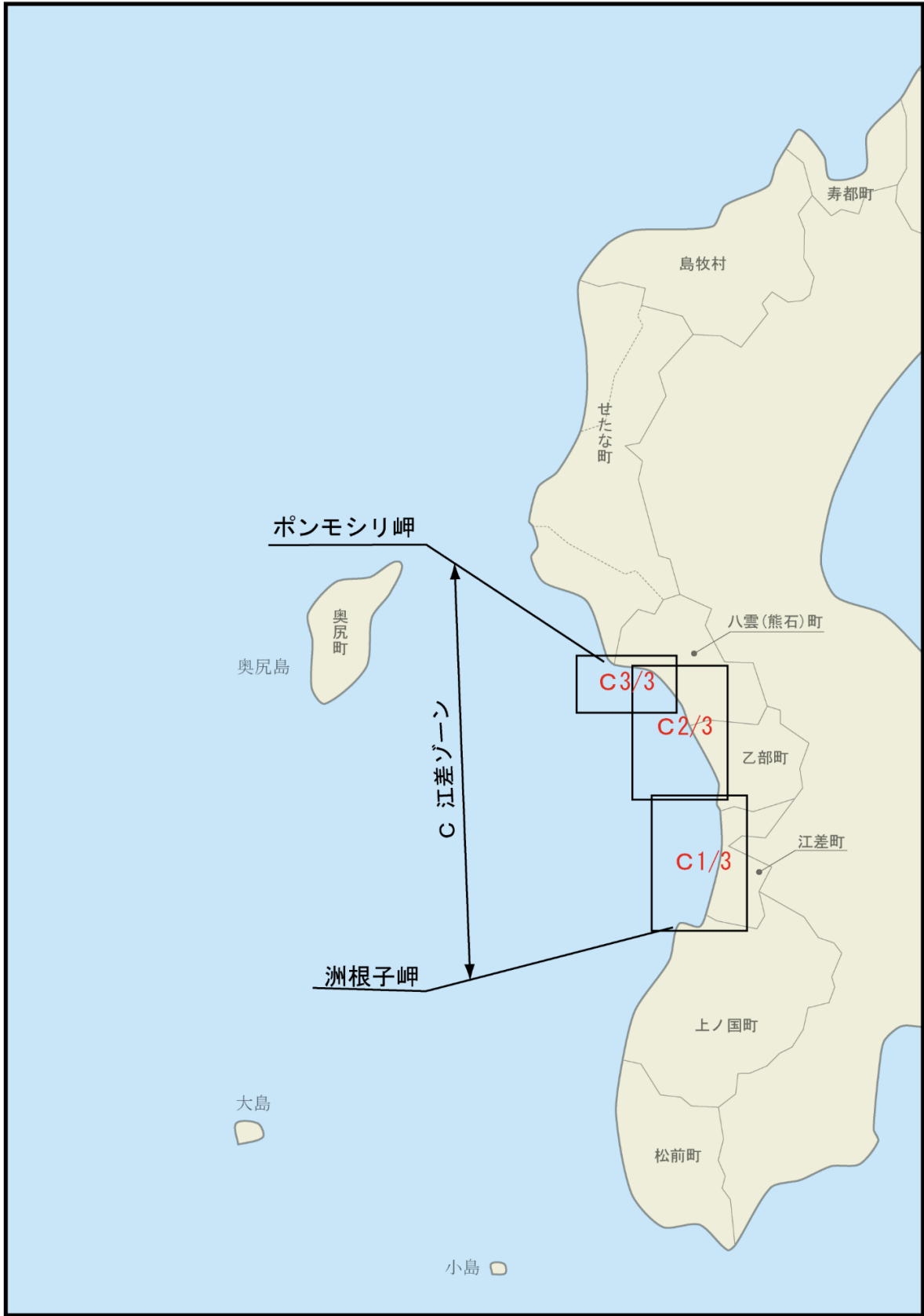
元和台海水浴場

【ゾーンの方向性】

防護面：来襲波浪に対して海岸保全施設の効果維持と局所的な侵食に対して砂浜の保全を図る。

環境面：減少する藻場と、海食崖・岩礁・砂浜などで生み出される自然景観に配慮する。

利用面：多様化する海岸利用に対応し、パブリックアクセスの確保と町村と連携し利便性の向上と利用者のマナー啓発に取り組む。



C 江差ゾーン郭割図